

## 令和6年度 三重短期大学外部評価委員会 報告書

1 日 時 令和6年7月30日(火) 17時～18時55分

2 場 所 三重短期大学管理棟2階 演習室1

3 出席者

(1) 外部評価委員 出席4名 欠席1名(上田美也子委員)

栗原廣海委員長、伊藤公昭委員、伊藤文子委員、仲律子委員

(2) 事務局 出席8名

村井学長、小宮事務局長、川邊事務局次長兼大学総務課長、南学生部長、石原図書館長兼地域連携センター長、田中法経科長、駒田食物栄養学科長、小野寺生活科学科長

4 委員のご意見・ご質問

- ・ハラスメントに関する相談等があった場合、対応窓口はどこになるのか、またどのような対応手順になっているのか。
- ・昨年度プログテストを試行し、今年度から本格的に新入生を対象に実施したとのことだが、概略でいいのでその結果は、また学生の受け止め方はどうだったのか。
- ・進路について「どうしていいのかわからない」と悩み、結果的に就職が決まらないまま卒業してしまう学生もいる。在学中に早めに気づき、支援につながる相談や指導が必要ではないのか。教員と臨床心理士との連携が必要ではないのか。
- ・オンライン相談がきっかけで、対面での相談につながる可能性もある。HPを活用した相談窓口の設置や、オリエンテーション時のストレスチェックやUPI等の実施とその活用も効果的ではないのか。
- ・18歳人口が減少し、特に2部学生の確保はますます大変になる。企業や自治体と組んで、高卒社員・高卒職員の入学増を目指すなど、新しい切り口が必要ではないのか。
- ・今年度オープンキャンパスの様子や手応えはどうだったのか。今年度は18歳人口が若干増えている。その影響もあったのではないのか。
- ・きれいなカフェテリアを作るなど、食堂の整備は学生確保に重要ではないのか。図書館の整備も重要ではないのか。

## 5 提言

- ・「卒業生満足度調査」の自由記述の中の5点、ネットでの履修登録、Wi-Fi整備、コンセント増設、参加率にも影響する行事連絡の早期化、女子トイレへのナプキン設置、に対して丁寧な対応が必要ではないか。
- ・県立高校では今年度から全生徒がタブレット端末を使用しており、ネットの活用が本格化していくが、その一方で対面での声掛けは重要だ。今後大学でもオンラインと対面、両方の対応が大切になるのではないか。
- ・生徒・学生の考え方は多様化している。一人一人の教養を高めつつ、多様性に配慮して就職や編入学など様々な進路を用意することがますます重要になるのではないか。
- ・「新入生アンケート」の「出身地」について、「伊賀・東紀州」とひとまとめにしているが、前者は大阪、後者は松阪が生活圏になる。それぞれに応じたマーケティングが必要ではないか。
- ・「新入生アンケート」の「志望動機」について、「編入学希望」と「資格取得」が高い比率を占めている。卒業後の進路につながる回答だが、この声に応えられているのか。
- ・「新入生アンケート」の「受験経路」について、食栄では「高校の紹介」の比率が低く、「家族知人の紹介」もそれほど高くない。オープンキャンパスで家族も楽しめるような工夫など、食栄についてプロモーションの方法の検討が必要ではないか。
- ・「新入生アンケート」の「卒業後の希望進路」について、「四大編入学」と「公務員」の比率が高いが、卒業時の実際の進路割合では低い。編入学試験対策、公務員試験対策の強化が必要ではないのか。
- ・ディプロマポリシーに「以下のような能力や態度を身につけた学生」とあるが、「身につけた」ことをどう判断し、卒業認定に結びつけているのか明確にする必要があるのではないか。この点でディプロマポリシーとカリキュラムポリシーとの関連は重要だ。こうしたことを考慮しながらWebシラバスの導入を行うべきだ。
- ・教学マネジメントの観点から、学習成果の可視化は重要だ。ポートフォリオの活用が必要ではないか。MANABAなどの学務システムもあるが、紙ベースでも可能なので今後検討が必要ではないか。